

観光ガイド 二本松



特集 十萬石の城下町

偉大なる「X」

- ・二本松の歴史
- ・二本松のまつり
- ・二本松の自然
- ・スポーツと文化
- ・二本松の特産
- ・温泉、宿泊施設



二本松 観光ガイドブック

もくじ

《特集記事》

- 偉大なる「X」 2～3
- お城山 城内散策 4
- 戊辰悲話の地 5
- 若き日の独眼竜 5
- 八幡太郎伝説を訪ねて 6
- 祭りを楽しむ 7
- 二本松の自然 8～9
- 二本松のアウトドア 10
- 文化と体験 11
- 二本松の特産、道の駅 12
- 温泉・宿泊施設 13
- 市内マップ 14～15
- 年中行事・アクセス 16



提灯は1台につき約300個。一晩に1500本を超えるローソクが使われ、そのローソクを取り替える若連の手際も見どころのひとつ。



宵祭り。元亀谷ロータリーの広場に7町の太鼓台が集うと、艶やかな紅提灯のあかりが一層観客を魅了する。



丹羽 光重 公 (大隣寺 蔵)

二本松藩 丹羽家代々

代	藩主名	在職
初代	光重	1643-1679
2代	長次	1679-1698
3代	長之	1698-1700
4代	秀延	1701-1728
5代	高寛	1728-1745
6代	高庸	1745-1765
7代	長貴	1766-1796
8代	長祥	1796-1813
9代	長富	1813-1858
10代	長国	1858-1868
11代	長裕	1868-1871

臣秀吉から「家紋としたがよからう」との言葉があつて、この紋と定められたという伝えもある。

丹羽長秀公の孫にあたる光重公が1643年に二本松

に入部。以来明治時代を迎えるまで丹羽氏の治世は続いた。領内の神社のなかには先述の二本松神社のように、この丹羽家ご家紋の使用を賜ったものがあり、葦などにその姿を認めることができる。二本松市内を散策の際は、シンプルであるがゆえに力強い、偉大な「X」を探すのも楽しい。

特集 偉大なる「X」

10月、暮れなずむ秋の二本松駅前人が集まり始めるころ、駅ほど近くの二本松神社の参道にも提灯の灯りが点される。

提灯には、大きく「X」が描かれている。提灯祭りに初めて来られた方は、まずその、宵闇に浮かび上がる「X」に驚かれるに違いない。

実はこれは現代人が連想する、「違う・誤り」という意味での「バツテン」ではなく、

二本松藩主・丹羽家の家紋直違紋(すじかいもん)、「通称・違い棒」である。よく見ると、現代の「X印」とは様相が異なることが分かる。織田信長のもと、織田四天王と云われ勇猛で知られた丹羽長秀公以来の丹羽家のご家紋である。

この家紋の由来は諸説あり、一説には、もともと長秀公の馬印(大将の存在を示すしるし)は、竹の枝に金の短尺をさげて飾りつけたものであって、「えづる竹に金の短尺」と称されていたが、合戦が終わって、この馬印をみたら、奮戦のために短尺は散って一枚だけの短尺が、バツテン十字状に残っていたので、それが、丹羽家の紋となったという説。また他説には、合戦のあとで、血の付いた刀を袖で拭いたあとに、バツテン状に血のりがついたので、豊

すしるし)は、竹の枝に金の短尺をさげて飾りつけたものであって、「えづる竹に金の短尺」と称されていたが、合戦が終わって、この馬印をみたら、奮戦のために短尺は散って一枚だけの短尺が、バツテン十字状に残っていたので、それが、丹羽家の紋となったという説。また他説には、合戦のあとで、血の付いた刀を袖で拭いたあとに、バツテン状に血のりがついたので、豊

レンタサイクル情報

二本松は坂の多いまちです。駅観光案内所でレンタサイクルを扱っておりますのでご利用ください。

二本松駅観光案内所

利用時間および料金 (カゴ付き自転車)

時間	種類	電動アシスト自転車
(9:00~17:00)の3時間以上~8時間以内		500円
(9:00~17:00)の3時間以内		300円

※返却時間を守ってください。

申込方法
二本松駅観光案内所で使用申込書に記入、身分証とともに提出ください。

問い合わせ先
(一社)にほんまつDMO
TEL0243-22-0785
※12:15~13:00は窓口不在です。



福島県指定重要無形民俗文化財

二本松の提灯祭り

毎年十月
第一土・日・月曜日

二本松神社の例大祭。

1643年、丹羽光重公が二本松城主として入部、その後「よい政治を行なうためには、領民にまず敬神の意を昂揚させること」と考え、寛文元年(1661年)「御両社」(二本松神社)が遷宮されたのち、寛文4年(1664年)6月に竹田・根崎が行った神輿渡御に本町・亀谷が同調して、同年8月15日に御両社祭礼として営んだことから始まったといわれている。

最もにぎわいを見せるのは、全ての町内が揃う初日の宵祭り。

① 大隣寺



③ 隠津島神社本殿



② 二本松神社



(提灯祭り祭礼日撮影)

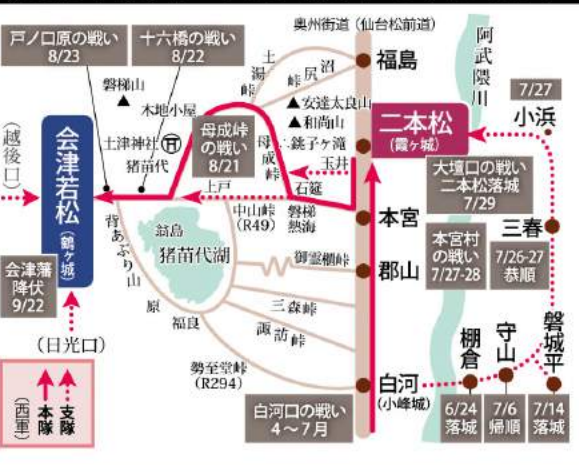
④ 霞ヶ城箕輪門



(桜まつり開催時撮影)

いろいろな所に隠れた「X」。あなたは全部見つけられましたか？

二本松～会津若松 1868年
戊辰戦争 西軍(討幕軍)進攻図



戊辰悲話の地

二本松城下は、城手前の観音丘陵が天然の要害となり、難攻不落の城として知られていた。そのような二本松城（P4参照）が、最初にして最大の被害を受けたのが、幕末を揺るがした戊辰戦争である。

幕府軍の要衝であった二本松藩の玉碎戦は壮絶を極め、一連の戦いは戦場で幼き命を散らした「二本松少年隊」の悲劇の舞台となった。慶応4年（1868年）旧暦7月29日二本松城落城。二本松城を占領した新政府軍は討論の末、次の標的を会津藩に定め、武士の時代は終焉を迎える。

二本松城は戦禍により焼失するも、城跡は現在公園として整備され、春には往時を偲ぶがごとく花霞が煙り、多くの花見客が訪れている。

石畳を昇るとシダレザクラが出迎える大隣寺（写真下）は、二本松藩主丹羽家代々の菩提寺として尊崇を集めてきた。境内にある群霊塔は戊辰戦争において遺体が発見された戦死者全員の供養塔。この群霊塔の左右に、愛する郷土を守るために戦った隊長以下の少年隊士の供養塔がある。



大隣寺

供中口古戦場は奥州街道を進む新政府軍本隊とは別に小浜方面から薩長兵を主力とする別働隊が進軍し、戦闘となった場所。阿武隈川を挟んで対峙した三浦権太夫義彰は、自らが天皇に刃向かう意思のないことを表すため、狩衣姿に鐵を外した弓矢を携え出陣し、敗色濃厚となると農兵を退却させ、ここで一人壮烈な自刃を遂げている。



供中口と阿武隈川

大壇口古戦場は、隊長・木村銃太郎、副隊長・二階堂衛守が率いた12〜17歳からなる二本松少年隊25名の奮戦地。尼子台を破った土佐の板垣退助率いる新政府軍本隊との攻防戦は、歴然とした戦力差のなかでの玉碎戦となった。新政府軍の指揮を執った野津七次（のちの元帥陸軍大将野津道貫）をして、「恐らく戊辰戦争中、第一の激戦であったろう」と言わしめた二本松城下の戦いの主戦場であった。



大壇口 木村銃太郎戦死の地碑

粟ノ須古戦場



小浜城跡



小手森城跡



称念寺 畠山家墓所

若き日の独眼竜

小手森（おてのもり）城は、小浜城主大内氏の支城で、二本松市針道にあった城館。1585年（天正13年）、独眼竜と恐れられた伊達政宗により攻められ、城内に居た者は女・子ども、犬に至るまで容赦なく殺害された。その数八百名とも千名ともいわれる。織田信長の比叡山焼き討ちにも比肩するこの出来事は、「小手森城の撫で斬り」と呼ばれ、周囲の大名や民衆に衝撃を与えることになった。

小浜城は、二本松市岩代支所の北方にそびえる山に本丸を構え、今に残る石垣が往時の姿を偲ばせる。1471年に大内晴継が築城した。同氏の前の居住地、若狭の国・小浜からその名が採られたという。伊達政宗は大内氏を攻め落としたあと、天下覇権を目指し会津芦名攻めの本陣として、ここに一年間居城している。

政宗の居城した小浜城を「下館」と呼ぶ一方、2kmほど南にあり、小浜城と両翼で防衛体制を形成していた宮森城を「上館」と称し、父輝宗はここに居住した。この宮森城は戦国史上最も有名な拉致事件の舞台である。1585年（天正13年）10月、優勢な伊達・田村連合軍を前にした二本松城主畠山義継は、政宗に降伏を申し入れるが、厳しい講和条件を突きつけられる。輝宗の取り成

しにより和議の条件は緩和されることになったが、疑心暗鬼になっていた義継は、見送りに出た輝宗を拘束して根城である二本松城へと帰投することを試みるのである。

鷹狩りに興じていた政宗は、とって返して父を奪還しようとしたものの、いかんともしがたく、人質たる父もとも目がけて一斉射撃を行い、この一件で父輝宗は畠山義継とともに最期を遂げる。小規模な戦いで名将二人が果てた稀な戦いとなったこの場所は、「粟ノ須古戦場」（二本松市沖）として残され、毎年、事件が起こった10月8日に忌年祭が開かれている。

なお、畠山家の墓所は、本町の称念寺にあり、畠山家累代や「粟ノ須の戦い」で戦死した家臣23名が祀られている。

二本松城跡(霞ヶ城)

二本松城は、阿武隈山系の裾野に位置する標高345mの白旗ヶ峰を中心として、三方が丘陵で囲まれた、馬蹄形城郭で、自然地形を巧みに活用した要塞堅固な名城であった。

15世紀中ごろ奥州探題・畠山氏の居城に始まり、一時伊達氏の支配のち、会津領として蒲生・上杉・加藤氏らの城代時代が続いた。

寛永20年（1643年）、丹羽重公が白河藩から二本松藩10万7000石の初代藩主として移封され、以後220有余年にわたり丹羽氏の居城となり、慶応4年の戊辰戦争を迎えることになる。

戊辰戦争では、旧幕府軍（東軍）の要衝として位置づけられ、隣藩会津への義に殉じて戦火に巻き込まれた。



③秋：霞ヶ城全景（左上隅にあるのが天守台）

①春：桜の箕輪門

④冬：洗心亭

②夏：あじさいと天守台

二本松城の四季 お城山四季おりおり

二本松城跡

平成19年国史跡指定

城内散策マップ



日本百名城として多くの方が訪れる、梯郭式の平山城。現在は公園として整備され、園内には多くの見どころがある。特に天守台からの眺めは絶景。市内一円を見渡せる。

6《智恵子抄詩碑》

高村光太郎直筆「樹下の二人」「あどけない話」の一節を、伝説が残る大小一對の「牛石」に銅版ではめ込んでいる。周囲の円形野外劇場のイメージは、詩人の草野平の発案。

5《傘松》

別名「八千代の松」とも言われるアカマツの巨木で、樹齢350年を越す。1本の幹から四方に枝を伸ばした独特の形状は見事。

4《洗心亭》

城内に唯一残る江戸期の建造物で、木造茅葺き・寄棟平屋造りの茶亭。当時は「墨絵の御茶屋」といわれていた。

一時阿武隈川河畔に移築し、藩主の釣り茶屋としていたものを、明治40年に再移築した際に、丹羽家16代当主が上方にある洗心庵に因み、「洗心亭」と名付けた。

3《箕輪門》

初代藩主丹羽重公入部まもなく、城内整備のため御殿とともに最初に建造した櫓門。主柱材料の巨木は領内箕輪村山王寺山のご神木を用いたことから、この名がある。

2《三本松少年隊群像》

戊辰戦争二本松最大の激戦地・大壇口における二本松少年隊の奮戦姿と、わが子の出陣服を仕立てる母の姿を、日本芸術院会員・名誉市民の彫刻家橋本堅太郎氏がブロンズ制作。平成8年建立。

1《旧三本松藩戒石銘碑》

藩士を戒めるために、5代藩主丹羽高寛公が藩儒学者の岩井田畔非に命じて、藩士通門前の自然石に刻ませた4句16文字の銘文。教育資料として、また行政の規範としての価値が高く評価され、昭和10年国史跡に指定されている。



万人子守地蔵尊例大祭 (小浜)

5月3日～4日

万人子守地蔵は、子どものいたずらから大水で流され、宮城県荒浜に打ち上げられているのを発見されて再び小浜に帰ってきたという言い伝えがあるお地蔵様。2日間にわたるこの祭りは、子どもたちの健やかな健康を願って盛大に執り行われる。この地では、今でも子どもの守り本尊として「子地蔵尊」を貸し与える風習が残り、子地蔵を里帰りさせ、新たに祈禱を受けるために多くの参詣者が訪れる。



針道の山車もみ (あばれ山車) (針道目抜き通り)

スポーツの日の前日

天正13年(1585年)からの祭りと言われ、現存する記録では宝暦8年にこの付近一帯が凶作や疫病に見舞われた際、人形を飾った山車や神楽囃子を奉納した記録が残っている。現在では毎年、スポーツの日の前日に開催され、若連作製の大型人形を飾りつけた山車が、豪快な太鼓の音が鳴り響くなか、激しいもみ合い(ぶつかり合い)を繰りひろげる。



塩松神社例大祭 (小浜の紋付祭り) (小浜)

スポーツの日の前日と前々日

領主羽月氏に御紋章三箇所の使用と神輿渡御が許可され、寛政元年(1789年)から始まった。2日目の本祭りで神輿渡御が行われる際に、若連全員が紋付羽織袴の正装をし、荘厳に行われることから、「紋付祭り」と言われるようになった。

八幡太郎伝説を訪ねて

二本松市街地から国道459号を東へ車で約30分。阿武隈のなだらかな山々を縫う道脇に、突然大きなしだれ桜が現れます。(写真1)これが、三春の滝桜の孫桜とも言われる、『合戦場のしだれ桜』。八幡太郎義家と安倍貞任・宗任との合戦の場と伝わる地に立つ二本のベニシダレザクラが、満開の時期には周囲の菜の花の黄色とえも言われぬ彩りの競演をします。桜の開花時期にはライトアップもされており、昼とは違った艶やかな表情が楽しめます。

合戦場の桜から国道349号に入り北上すると、『道の駅ふくしま東和』(P12参照)があります。周囲一帯はかつて養蚕業が盛んでした。養蚕業を終えて眠っていた桑畑の資源を蘇らせ、現在では桑の実を使ったジャムや、桑の葉を使ったお茶、ゼラートなど、桑にちなんだ特産品を生産販売しており、人気となっています。

この道の駅から西へ入った場所にあるのが白鬚宿。近くを流れる川は、義家が愛馬の汚れを落とすと伝えられ、「馬洗川」という名の由縁になっております。小さな滝が連続する景色は、一服の清涼感を味わわせてくれます(写真2)。

再び国道349号に戻り、北上すると正面に見えるのが木幡山。古くから神霊の籠もる山として信仰の対象になっていました。769(神護景雲3)年に安積国造の丈部継足が山中に隠津島神社を勧請したのが始まりと伝えられています。今に伝わる冬の風物詩、「木幡の幡祭り」(写真3)は、前九年の役において敗走した源頼義・義家父子が、この山中に立て籠もり、弁才天宮に戦勝を祈願したところ、たちまち降雪があり、追ってきた安倍氏が雪に包まれた杉木立を源氏の標である白旗と見誤ったため、その多勢に驚いて退却した故事から始まったと伝えられています。杉の美林



八幡太郎義家(源義家)は、鎌倉幕府を開いた源頼朝の曾祖父にあたり、また室町幕府を開いた足利尊氏の祖先にもあたることから英雄視され、様々な逸話が生まれています。ここ二本松市にも、そんな伝説に彩られた数々の場所があります。



が全山を覆う木幡山は、林道で八合目まで車で行くことができ、途中の展望台からは安達太良連峰の山容を見渡すことができます。

義家伝説は、滅ぼされた側の安倍氏の伝説も二本松市に残っています。二本松市内を縦走する阿武隈川の、大きく蛇行する辺りを島山といい、奇岩怪石が千変万化の景観を織り成す渓谷になっていて、別名『稚児舞台』(写真4)と呼ばれています。この稚児舞台は、源義家に安倍軍が稚児の舞を披露した場所とされ、次のような悲話が残っています。奥州征伐に來た源義家の大軍が阿武隈川を挟んで奥州の豪族安倍貞任の軍勢と数十日も対峙し、弓矢の合戦を繰り返していました。1055(天喜3)年春、双方の兵が疲れ果てたある日、東岸の源氏勢が「奥州の豪族といえども、舞を舞う子女は一人もおるまい」と安倍勢をはやし立てます。安倍貞任は「それまで言われては一門の恥」と激怒し、二人の乙女を稚児姿に仕立て、大きな岩を舞台に舞を舞わせます。二人は花に戯れるチョウのように優雅に舞い、このときばかりは、川の瀬も群れ飛ぶ鳥の声も鳴りを潜め、兩岸の兵は天女のように舞い踊る娘たちにうっとり見とれ、喝采が沸き起こりました。ところが、舞い終わった二人は「生き恥をさらした」と抱き合い淵に身を投じたといわれています。現在、稚児舞台(島山)は、全国でも指折りのカヌーコースとしても知られ、春には白く可憐なユキヤナギの花が、岩肌を美しく染め上げます。

このほか、源義家一行が飯屋を作って野宿したことから「借宿(かりやど)」、安倍軍が源義家軍を大軍と見間違え、後ずさったことから「至去(しざる)」など、市内のいたるところに八幡太郎義家伝説由来の地名が残されており、地名にのみ留める伝説もまた、空想の旅を広げてくれます。

まつりを楽しむ

市内には、歴史あるお祭りがたくさん残されています。一年でもわずかその期間にしか見ることのできない「お祭り」には、地域の文化や歴史、気質などが凝縮されています。そんな各地の祭りに、ぜひ足をお運びください。

開催地については「二本松エリアマップ」P14・15をご覧ください。



二本松の菊人形 (霞ヶ城公園)

10月～11月中旬

菊の花が鮮やかさを増し、木々の紅葉も徐々に10月中旬から11月中旬にかけて、霞ヶ城公園を会場に開催される菊の祭典。昭和30年から始まり、多くの人に支えられてきた、二本松を代表する秋のイベントである。菊のまち二本松が誇る品質の良いおしゃな洋菊(マム)をふんだんに使用したイベントが同時開催される予定です。



にはんまつ菊手水

10月中旬～11月中旬

「二本松の菊」のPRとなるよう、菊と洋菊(マム)を用いた「菊手水」を企画。菊を浮かべる菊手水を「菊手水」と呼び、二本松市内の各所に飾っています。スポットごとにテーマが異なる多彩な「にはんまつ菊手水」をご覧ください。

奥州安達ヶ原「黒塚」鬼婆概説

歌舞伎や謡曲でも有名な黒塚である。ここ安達ヶ原の「鬼婆(おにばば)」は、その名を「岩手(いわて)」といい、京都のある公卿屋敷の乳母であった。永年てしおにかけて育てた姫の病気を治したい一心から、「妊婦の生肝(いきぎも)を飲ませれば治る。」という易者の言葉を信じ、遠くみちのくに旅立ち、たどり着いた場所が、ここ安達ヶ原の岩屋だった。

木枯らしの吹く晩秋の夕暮れどき、伊駒之助(いこまのすけ)・恋衣(こいぎぬ)と名の若夫婦が一夜の宿をこうたが、その夜、身ごもっていた恋衣がにわかに産気づき、井駒之助は薬を買いに出て行った。老婆「岩手」は、待ちに待った人間の「生肝」を取るのはこの時とばかり、出刃包丁をふるって、苦しむ恋衣の腹を裂き「生肝」を取ったが、苦しい息の下から「私達は小さい時京都で別れた母を探し歩いているのです。」と語った恋衣の言葉を思い出していたお守袋を見てびっくり。これこそ昔別れた自分のいとしい娘であることがわかり、気が狂い鬼と化してしまったという。

以来、宿を求めた旅人を殺し、生血を吸い、肉を食らいいつとはなしに「安達ヶ原の鬼婆」といわれるようになり、全国にその名が知れ渡った。数年後、紀州熊野の僧「阿闍梨祐慶東光坊」が安達ヶ原を訪れ部屋の秘密を知り逃げた。老婆すさまじい剣幕で追いかけてくる。東光坊今はこれまでと、安座す如意輪観音の笈をおろし祈願するや尊像は虚空はる

かに舞い上がって一大光明を放ち白真弓で鬼婆を射殺してしまったという。

そしてその後、東光坊の威光(いこう)は後世に伝わり、この灼(あ)らかな白真弓如意輪観音の光徳甚深なる利生靈験は、奥州仏法霊場の「随一」と称する天台宗の古刹となり、今日に至るまで赫々(かくかく)の名を残したのであります。

鬼婆を埋めた塚を「黒塚」といい、そこには平兼盛の詠んだ有名な「みちのくの、安達ヶ原の黒塚に 鬼こもれりと、聞くはまことかの句碑が建立され、その昔を物語っております。境内には鬼婆の住んだ岩屋、鬼婆石像、夜泣石他、又、俳聖正岡子規が黒塚を訪れ

「涼しさや、聞けば昔は鬼の家」と呼んだ句碑や文久元年、養蚕繁昌を祈願して建てられた「蚕養神(さんようじん)」等の碑があります。近くには恋衣地蔵堂(安達ヶ原公園頂上)、伊駒地蔵堂(北向)も建立されております。



黒塚

紅葉の安達太良山

二本松の 名山

安達太良山 1,700m

標高 1,700mの安達太良山は磐梯朝日国立公園内の南端に位置し、南北約 9 キロにわたって連なる安達太良連峰の主峰。万葉集に詠まれた最北の山で、その山容から『乳首山』（ちちくびやま）ともいわれています。初夏には天然記念物の『シャクナゲ』が咲き

乱れ、登山者の心を和ませています。詩人高村光太郎が、「あれが阿多羅山、あのひかるのが阿武隈川」（樹下の二人）と詠み、その妻、賢恵子のふるさととしても有名です。

標高 950m~1,350m あだたら山ロープウェイ



奥岳登山口からは、8合目まで行けるロープウェイも運行。登山や紅葉狩りに便利です。

高速6人乗りロープウェイ

- 営業期間 4月下旬～11月上旬
- 営業時間 8:30～16:30
- 料金 一般大人：片道1,000円／往復1,700円
- 問合せ先 あだたら高原リゾート
- TEL 0243-24-2141

※天候などにより運行時間を変更する場合があります。※平日に不足連休日があります(8月・10月を除く)ので、ご利用の際はご確認ください。

市内の山

日山 1,057m

源義家が松 1,000 本を奉納したことから松山と呼ばれ、初代藩主丹羽光重公が日祭の大祈禱をして以来、日山と表すようになったといわれています。富士山が撮影できる北遠(距離)の山としても知られています。



羽山(麓山) 897m

円錐形の独立峰で山頂部からの眺望がよく、富士山が撮影できることでも注目されています。春にはヤマツツジ、スズランなどが参道から頂上にかけて咲き誇り、訪れる人の目を楽しませてくれます。麓には果樹園が広がり、果物狩りなどで賑わいます。



口太山 843m

川俣町山木屋との境にあり、中腹の夏無沼キャンプ場は、その名の通り夏も暑さを知らぬ処として知られています。穏やかな山容と裏腹に一説に山名は「朽ち人」が転訛したとも言われ、悲しい伝説が残っています。



市内の名木・名花

 129 744 226 国指定	 129 324 837 国指定	 129 496 726 県指定	 377 744 317 県指定
 129 608 821 市指定	 129 638 004 市指定	 129 639 214 市指定	 129 608 272 市指定
 129 623 166 市指定	 129 730 607 市指定	 129 477 644 市指定	 129 652 847 市指定

①あだたら溪谷自然遊歩道
MAPCODE 377 744 455

安達太良山に源流を持つ『原瀬川』の特に景観の優れた延長 5 キロを『鳥川』と呼び、古くから地元の人や登山者に親しまれています。1 キロ 1 時間で周遊できるコースが人気です。

②湯川溪谷
MAPCODE 377 805 486

三階滝、八幡滝、霧降ノ滝、屏風岩、天狗岩等の奇岩等が立ち並び、変化に富んだ渓谷美を楽しむことができます。

③桜坂
MAPCODE 377 688 251

温泉街のヒマラヤ大通りを下り鏡ヶ池につながる道は桜のトンネルとなり、例年 4 月の下旬に見頃を迎えます。温泉街をそぞろ歩きながら夜桜が楽しめます。

④安達ヶ原ふるさと村 曼珠沙華

『安達ヶ原』は鬼婆伝説の地。緑豊かな自然の中で二本松の歴史と伝統的生活がひとめでわかるよう、武家屋敷や茶室、当時の養蚕農家などを再現しました。
■入場無料(一部有料施設あり)
■TEL 0243-22-7474 ■住所: 安達ヶ原 4-1 0 0

⑤木幡山三重塔

昭和 3 0 年に県の重要文化財に指定されたこの三重塔は、室町時代の文明 4 年(1 4 7 2 年)に建立されました。天正年間伊達政宗の兵火により全山が炎上した際も唯一残り、のちに二本松藩主丹羽光重公により修復されましたが、明治 3 5 年の大暴風により第 1 層を残して倒壊。

⑥緑結び御神木

その後の修復や平成 1 9 年からの改修工事を経て、深山の静寂の中に漂ったたずんでいきます。第二社務所の近くには、杉の木とけやきの木が一つの石を挟み、仲良く立木しているように見える、緑結びの御神木があります。 ■住所: 木幡宇治家 4 9

「二本松の自然」はこちらをご覧ください→



二本松花さんぽ



カーナビの目的地設定メニューから『マップコード』を選択し、電話番号を入力するようにカーナビに入力すれば、目的地の設定が簡単に行えます。 『マップコード』および『MAPCODE』は(株)デンソーの登録商標です。

文化と体験

Culture and Experience

安達太良山と阿武隈川

智恵子大橋からの眺望



智恵子の名前を冠した「智恵子大橋」は二本松を南北に貫く広域農道で、市内上川崎と長下を結ぶ橋です。阿武隈川越しに安達太良山が仰ぎ見られる、絶好の撮影スポットです。

にはんまつ城報館 (二本松市歴史観光施設)

国史跡指定二本松城跡や二本松少年隊の歴史、市内の観光情報を知ることができる新たな施設です。貸し出し可能なラウンジや全周囲型スクリーン映像で城跡の四季や石垣を紹介するガイダンス室などがあります。また、一年を通して様々なイベントが開催される予定です。

【施設概要】1階 二本松城ガイダンス室、歴史展示室、企画展示室、お祭り広場など
2階 多目的ホール、休憩ラウンジ、デッキなど

TEL: 0243-22-6630
住所: 郭内三丁目303番地5



智恵子の生家／智恵子記念館

詩人高村光太郎の妻で、「智恵子抄」のモデルでもある智恵子は造り酒屋の娘として生まれました。生家には智恵子愛用の品などが展示され、地酒「花霞」を醸造していた当時の華やかな面影を今に残しています。生家の裏手には「智恵子記念館」があり、紙絵や油絵などの作品が展示されています。

開館時間: 9:00 ~ 16:30
入館料: 大人 (高校生以上) 410円
TEL: 0243-22-6151
休館日: 水曜日・年末年始
住所: 油井字漆原町36



観世寺

謡曲や歌舞伎などで語りつがれる「安達ヶ原・黒塚」の鬼塚伝説。その舞台となる観世寺は、鬼塚を退治した祐慶阿闍梨の開基と伝えられ、鬼塚に住んでいたといわれる岩屋などが詳細に記されています。近くにある黒塚は安達ヶ原の鬼塚のお墓とされています。

拝観料: 大人 400円 / 小人 200円
TEL: 0243-22-0797
住所: 安達ヶ原4-1-26



二本松観光ボランティアガイド

二本松をより多くの方々に知って頂けるよう発足した、地元の有志で構成される団体です。地元市民ならではの地域に密着した視点で二本松の観光地・史跡・文化財をご案内いたします。

ご案内は無料ですが、昼食を摂る場合のガイドの食事代や、複数箇所をご案内する際の交通手段(車)の確保は依頼者にご負担頂きます。

予約制 希望日の10日前までにご連絡ください。
http://www.nihonmatsu-kanko.jp/volunteer.html

二本松観光ボランティアガイド協会 TEL: 0243-55-5122 FAX: 0243-22-8533



二本松市和紙伝承館 和紙漉き体験

千年の歴史を持つ手作りの上川崎和紙。平安中期・冷泉天皇の時代に始められたと伝えられ、「みちのく紙」と呼ばれ平安貴族に重用されました。道の駅「安達」上り側に併設されている和紙伝承館では、平安文学の歴史に大きな役割を果たした上川崎和紙に触れられるとともに、有料でさまざまな和紙漉きの体験ができます。

営業時間: 9:00 ~ 17:00
TEL: 0243-61-3200
休館日: 1月1日のみ休業
住所: 下川崎字上平3-3-1



酒蔵見学

安達太良山を源にする水とおいしい米、厳しい冬の寒さに育まれた二本松のお酒。そのおいしさの秘密をこっそり教える酒蔵見学が人気です。見学の条件については各蔵元で異なります。事前にご確認ください。

奥の松酒造 0243-22-2153
大七酒造 0243-23-0007
桜井酒造 0243-23-0164
人気酒造 0243-23-2091



大山忠作美術館

二本松市出身で現代日本画壇の重鎮として活躍された大山画伯から、平成19年に二本松市へ寄贈された作品を主に、日春展・個展作品や素描など30数点を常時展示しております。

開館時間: 9:30 ~ 17:00 (入館: 16:30まで)
休館日: 毎週月曜日 (ただし、祝日の場合は開館し、翌日休館) 年末年始 (12/29~1/3)
入館料: 一般 410円 / 高校生以下 210円
TEL: 0243-24-1217
住所: 本町2-3-1 市民交流センター3階



焼き物

市内には幾つかの窯元があり、土の温もりを感じる作品を製作、販売しています。それぞれ陶芸体験も受け付けています。

【万古焼(井上製)】0243-23-2195
【三渡窯】0243-47-3019
【安達焼】0243-23-2109
【琴星窯】0243-46-3179



あだたら高原スキー場

東北でも代表的な雪質の良さと知られるスキー場です。コースは7コースからなり、初級者から上級者まで幅広く楽しめます。スキーセンターの隣にあるキッズパークは子ども専用エリア。一般ゲレンデから独立しているため、小さなお子さまでも安心して雪遊びができます。

二本松塩沢スキー場

安達太良山の北斜面にあるため、雪質は乾いた粉雪で滑りやすいです。ファミリー向けゲレンデ、ペアリフト2基、スノーマシン、ナイター完備。東北自動車道二本松ICより車で約20分。急な登り坂もなく、初心者や女性ドライバーでもラクク運動が楽しめます。

スカイピアあだたらアクティブパーク

スケートボード・スポーツクライミング・スラックラインの3つが体験できる全国初の屋内施設。天気を気にせず楽しめる屋内スポーツ施設です。



利用料: 種目ごと体験 大人1,500円、高校生・他学生1,000円、小・中学生 500円
3種目体験 大人3,000円、高校生・他学生2,000円、小・中学生1,000円
営業時間: 平日13:00~21:00 土日祝日11:00~19:00
休館日: 毎週水曜日 TEL: 0243-24-5066 住所: 上業木坂2-3

東北サファリパーク

岳温泉の北東にある野生の王国には、ライオン・トラ・象・キリンなど、200種類約1,100頭もの動物達が暮らしています。マイカーで猛獣のなかに探検すれば、サファリ気分が楽しめます。

エビスサーキット

東北サファリパークに隣接するレース場。自動車の後輪を滑らせながら走行する「ドリフト」の聖地であり、ドリフトスクール講師が運転する専用車に乗車し、迫力あるドリフトを体験できます。

日山キャンプ場

家族や仲間とのお楽しみと自然の中でアウトドアライフを楽しみませんか。快適なキャンプに必要な水道・流し・カマドを完備したバーベキューハウスに、8人用・15人用バンガローをご用意。布団や道具の貸し出しもOK。

日山パークゴルフ場

自然の地形を活かしたアンジュレーションがあり、距離は短いものの戦略性に富んだコースです。クラブとボールはスコアカードと一緒にお願いします。



ウォーキング & トレッキング

安達太良山の麓にある岳温泉は、標高600mの亜高山帯と低山帯の重なる位置にあり、起伏に富んだ地形を活かして散策コースやトレッキングコースが整備され、気軽に歩いて楽しめる温泉地です。

ADATARA アクティブとして、個人のレベルに応じた様々なコースが設定されていますので、初心者から愛好家まで幅広く楽しむことができます。

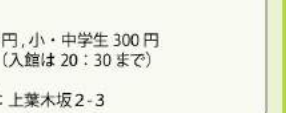
歩いた後は、全国でも珍しい酸性泉の温泉をどうぞ。酸性泉のお湯は発汗後の雑菌の繁殖を抑え、運動のあとの疲れを癒してくれます。

スカイピアあだたら

さまざまな種類の入浴が楽しめる日帰り温泉施設。周辺には芝生広場や体育館があり、森林部分(共生の森)では遊歩道散策も楽しめます。

《温泉保養館》

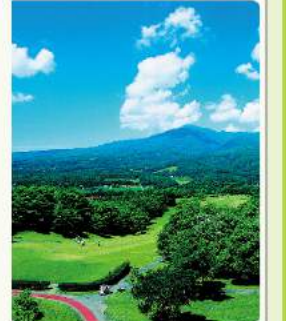
料金: 1人1回券 / 大人 600円、小・中学生 300円
営業時間: 9:00 ~ 21:00 (入館は 20:30まで)
休館日: 毎月第1水曜日
TEL: 0243-24-3101 住所: 上業木坂2-3



安達太良カントリークラブ

あだたら高原の自然を活かして作られた、伝統の18ホール。青空に美しいシルエットを見せる安達太良連峰の山並みに向かって打つ。この爽快感をぜひ一度味わってください。

全18ホール
営業時間: 3~12月
TEL: 0243-24-2111
住所: 雄平台15



夏無沼キャンプ場

夏でも暑さを知らぬところからその名が付いた「夏無沼」近くのキャンプ場。日太山山腹の野趣あふれた静かな環境でキャンプが楽しめます。



《東和支所地域振興課》
バンガロー: (一泊) 3,300円 (日帰り) 1,650円
TEL: 0243-66-2490
住所: 針道字夏無8

ウッドハウスとうわ

阿武隈清流のある高台に建ち、体育館・テニスコート・グラウンド・ログハウスを有した、研修、レジャー、スポーツ合宿に利用できる宿泊研修施設です。

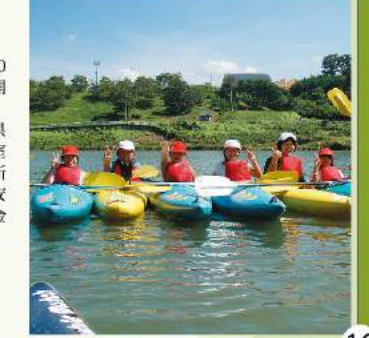


宿泊1泊2食付
大人: 7,150円~
小人 (4歳~小学生): 4,730円~
TEL: 0243-46-3391
住所: 木幡字東和代3-4-1

カヌースプリントコース

阿武隈清流は、横120m・直線1,000mのコースで、スピーディーなレースが展開されます。また、東和公民館内に事務局をもつ福島県カヌー協会では、各種団体からのカヌー教室の申込みも受け付けていて、県カヌー協会所属の講師が基礎から丁寧な指導を行い、安全にカヌーを体験することができます。料金等のお問合せは福島県カヌー協会まで。

福島県カヌー協会 (二本松市東和公民館内)
TEL: 0243-46-4111
住所: 針道字上1-3-2



二本松のアウトドア

Outdoor

【ご注意】掲載記事の内容・料金等については、令和4年4月現在の内容です。

だけ 岳温泉

岳温泉のお湯は全国にある天然湧泉の中で、さらにめずらしい「酸性泉」。湯元から8キロの距離を引き湯して、約40分かってこの温泉街まで流れてきます。その間、お湯が採まれ、肌に優しく評判の温泉です。



Spa 湯



なめつ 名目津温泉

名目津温泉は、阿武隈高原中部県立自然公園に指定されている日山の麓を流れる口太川の渓流を見下ろす秘湯です。森と渓流に抱かれた静かな環境で湯浴みを楽しめます。泉質はラドン含有量が多く、特殊成分を含む「療養泉」で、痛風、慢性皮膚病、慢性婦人病、高血圧症等に効能があると地元民に愛されています。



名目津温泉は日帰り専門の入浴施設です。

岳温泉ニコニコ広場(二本松市岳温泉交流広場)

豊かな自然に囲まれつつ、昔ながらの温泉街の雰囲気を感じることができる岳温泉。そのメインストリートであるヒマラヤ大通りに面した当広場は、地域観光の振興による交流の拡大や地域の活性化を図ることを目的とした施設です。岳温泉散策中のちょっとした憩いの場として、地域のイベント会場として、岳温泉交流広場を利用してみませんか。



【施設概要】
 ・休憩棟（休憩室、イベントスペース、トイレ、授乳室）
 ・多目的広場（芝生広場）
 ・駐車場（普通車30台、軽乗用車3台）
 ※休憩棟の利用時間は午前9時～午後5時までです。
 ※一般利用（専用利用以外）の場合は、すべての施設を無料で使用できます。

【所在地】 二本松市岳温泉一丁目101番地
【TEL】 0243-55-5095

宿泊施設

岳山麓 (市街地・東部)	《岳温泉郷》 市外局番0243 あだたらの宿 扇や 24-2001 陽日の郷 あづま館 24-2211 ながめの館 光雲閣 24-2101 花かんざし 24-2110 鏡が池 碧山亭 24-2008 旅籠 ふじ乃 24-2225 くろがね 小屋 090-8780-0302 あだたらふれあいセンター 24-2226	● 民宿 和楽荘 24-2417 ● 民宿 玉美 24-2513 ● ペンションイセントエイジ 24-2549 ● ペンションシャンカー 24-2951 ● 岳の湯 24-2139 ● 空の庭 プチホテル 24-2217 空の庭リゾート 24-2306 mt.inn 24-5234 ホテルパラダイスヒルズ 0120-664-356	《塩沢温泉郷》 市外局番0243 ● 旅館 青木荘 24-2244 ● ペンション四季の郷 24-2847 ● ペんしよん 杜の泉 24-3301
	《二本松駅前》 市外局番0243 旅館 大宗 23-0101 アーバンホテル二本松 22-1111 《二本松市街》 市外局番0243 福島県男女共生センター 23-8301 ホテルルートイン二本松-国道4号- 050-5576-8205 《安達駅前》 市外局番0243 かねすい 智恵子の湯 23-1178	● 民宿 和楽荘 24-2417 ● 民宿 玉美 24-2513 ● ペンションイセントエイジ 24-2549 ● ペンションシャンカー 24-2951 ● 岳の湯 24-2139 ● 空の庭 プチホテル 24-2217 空の庭リゾート 24-2306 mt.inn 24-5234 ホテルパラダイスヒルズ 0120-664-356	《東和地域》 市外局番0243 みどりや旅館 46-2727 木幡山 参宿所 46-2869 川崎屋 46-2503 ウッディハウスとうわ 46-3391 《東和地域・岩代地域》 農家民宿 農家の宿ならではの体験とおもてなし NPO法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会 46-2113 【HP】 http://www.touwanosato.net/minsyuku.html



農家民宿

二本松の特産

Special product

清酒

芳醇でかおり高く、まるやかな味が自慢の二本松の銘酒。安達太良山源流の水と美味しいお米に育まれたお酒です。

■お問合せ先は P11 をご参照下さい。



菓子

二本松城下として栄えた町ならではの菓子類。上品ななかにもキメ細やかなやさしい味と素材さがあります。郷土色豊かなふるさとの菓子をご紹介します。



菓子(五羊羹)

菓子処二本松の歌あるお菓子の中でも最もメジャーな菓子として「羊羹」があります。中でも五羊羹は、丸くて見た目も可愛らしく、お召し上がりの時に爪楊枝などで突つて楽しさが人気です。



ワイン・シードル

二本松東和地域では、震災後、特区制度を活用したシードル（発泡性のりんごのワイン）やワインの製造販売が開始されました。

■ふくしま農家の夢ワイン㈱ ☎0243-24-8170



羽山りんご

羽山の裾野の高所で栽培され、清涼な気候のもと蜜が入って美味しいりんごとして人気があります。あまりの美味しさに市場に出回る前に贈答用でほとんど消費されています。



りんごジュース

甘さ際立つ、美容と健康にいい天然果汁100%のりんごジュースです。

【あだちアップル】 下川崎果汁加工組合
 【りんごっこ】 斎藤りんご園
 【ほっぺくん】 羽山果樹組合



二本松万古焼

江戸時代より引き継がれた伝統製法で、製作された手むり急須は国内唯一の伝統技法です。釉を使わず焼き上げる焼締が美しく、使いこむ程に「つや」が出てきます。



えごま(じゅうねん)

食べると十年長生きするといわれることから『じゅうねん』とも言われるエゴマは、シソ科の植物。必須脂肪酸であるα-リノレン酸が多く、健康食品として注目されています。



桑製品

桑の葉には、血糖値の上昇を抑制する成分があるとされ、注目を浴びています。道の駅ふくしま東和では、桑の葉を粉末でそのまま飲めるようにした桑の葉パウダーやアイスクリーム、桑桃酎などが販売されています。



城家箆筒

約300年の伝統を持つ二本松家具は、二本松藩の城造りに携った木工職人が城内の調度品を造ったのが始まりとされ、厳選された木材をもとに丹念に仕上げられています。



上川崎和紙

「みちの和紙」といわれ、清少納言や紫式部などの平安貴族にも愛されたといわれる手作りの和紙。はがきや祝儀袋といった支用品から飾り物まで多くの製品があります。



農産物

豊かな自然に恵まれた二本松では、米はもちろん、気候を生かした野菜・果物づくりが盛んに行われています。



花き

二本松の花きは、旧盆・秋の彼岸が中心です。岩代田沢地区を中心に栽培されているリンドウや、東和地区を中心とした小菊は花の品質が高く、市場で高い評価を受けています。



家庭料理 ざくざく

さいの目に切った大根・人参・椎茸・蒟蒻・里芋などを入れ、煮だし、しょうゆで味付けした郷土料理です。冠婚葬祭を主として広く食べられています。



あだたらカレー

二本松のB級グルメ。二本松市産の素材をふんだんに使うことが条件で、各店舗個性を出した味が特徴です。



二本松市内 道の駅と直売所



道の駅「安達」 智恵子の里 (下り線) ■米沢字下川原田 105-2 ■TEL: 0243-24-9200	道の駅「安達」 智恵子の里 (上り線) ■下川崎字上平 33-1 ■TEL: 0243-61-3100	道の駅 ふくしま東和 ■太田字下田 2-3 ■TEL: 0243-46-2113	道の駅 さくらの郷 ■東新敷字平石田 12-2 ■TEL: 0243-68-4770	JAこらんしょ市 ■杉田字駄子内 6-1 ■TEL: 0243-62-4218
--	--	---	---	--

二本松エリアマップ

安達地域

東和地域

ドライブ所要時間の目安

霞ヶ城公園	5分	二本松にヨリ	10分	安達ヶ原ふるさと村
岳温泉	15分		10分	智恵子の生家
東北サファリパーク	15分		25分	ウッディハウスとうわ
塩沢温泉	20分		35分	合戦場の桜
あだたら高原スキー場	30分		50分	名目津温泉



《二本松エリアマップ》

- B-3 安達太良カントリークラブ P10
- B-1 あだたら渓谷 自然遊歩道 P8
- B-2 あだたら高原スキー場 P10
- C-2 ローブウェイ P9
- D-2 安達ヶ原ふるさと村 P8
- D-2 観世寺 P11
- D-2 安達焼 P11
- D-3 栗ノ須古戦場 P5
- E-1 ウッディハウスとうわ P10
- B-1 エビスサーキット P10
- F-2 隠津島神社 三重塔 P8
- F-2 小手森城跡 P5
- E-3 小浜城(下館)跡 P5
- E-3 宮森城(上館)跡 P5
- C-2 霞ヶ城公園 P4
- C-2 にほんまつ城報館(二本松市歴史観光施設) P11
- F-3 合戦場のしだれ桜 P6
- E-1 カヌースプリントコース P10
- F-2 カントリーパークとうわ -
- E-2 琴星窯 P11
- F-3 三渡窯 P11
- B-1 塩沢温泉 P13
- B-1 二本松塩沢スキー場 P10
- C-3 JAこらんしょ市 P12

- B-2 スカイピアあだたら(温泉保養館・アクティブパーク) P10
- F-4 杉沢の大スギ P9
- B-2 岳温泉 P13
- E-2 稚児舞台公園 P6
- E-3 東禅寺のめおとスギ P9
- E-3 西念寺 -
- E-3 松松神社 P7
- E-3 万人子守地蔵尊 P7
- B-1 東北サファリパーク P10
- G-2 夏無沼キャンプ場 P10
- G-3 名目津温泉 P13

- C-1 あだち湖(山ノ入ダム) P8
- F-3 馬洗川溪流 P6
- H-3 日山パークゴルフ場 P10
- H-3 日山キャンプ場 P10
- F-3 道の駅 さくらの郷 P12
- F-3 道の駅 ふくしま東和 P12
- D-1 道の駅「安達」上り線 P12
- D-1 道の駅「安達」下り線 P12
- B-1 湯川渓谷 P8

市街地マップ



- ### 《岳温泉マップ》
- A-1 あだたら宿 扇や P13
 - B-1 陽日の郷 あつま館 P13
 - A-1 ながめの館 光雲閣 P13
 - B-2 花かんざし P13
 - C-2 鏡が池 碧山亭 P13
 - B-2 旅籠ふじ乃 P13
 - B-2 ホテルパラダイスヒルズ P13
 - B-4 あだたらふれあいセンター P13
 - B-2 民宿和楽荘 P13
 - B-2 民宿玉美 P13
 - ペンションインセントエイジ P13
 - A-3 ペンションシャッカー P13
 - B-2 岳の湯 P13
 - B-3 空の庭 プチホテル P13
 - A-3 空の庭リゾート P13
 - B-2 mt.inn P13
 - A-2 岳温泉ニコニコ広場(二本松市岳温泉交流広場) P13

- ### 《市街地マップ》
- E-3 安達ヶ原ふるさと村 P8
 - A-4 大壇口古戦場 P5
 - B-4 大山忠作美術館 P11
 - E-3 観世寺 P11
 - C-3 称念寺 P5
 - A-3 大隣寺 P5
 - D-1 智恵子の生家・智恵子記念館 P11
 - D-1 智恵子の杜公園 -
 - D-1 展望台 -
 - E-3 供中口古戦場 P5
 - A-2 二本松城跡 P4
 - B-2 戒石銘 P4
 - B-2 箕輪門 P4
 - B-3 二本松神社 P2
 - A-2 万古焼井上窯 P11
 - B-2 にほんまつ城報館(二本松市歴史観光施設) P11

二本松駅観光案内所
(一社)にほんまつ DMO
TEL 0243-22-0785

営業時間
毎日
9:00~17:30
※12:15~13:00は
窓口不在
定休日
毎年
12/29~1/3

岳温泉観光案内所
(一社)岳温泉観光協会
TEL 0243-24-2310

営業時間
毎日
8:30~17:30
定休日
毎年
1/1~1/3

岳温泉マップ



12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月	3月	2月	1月
木幡の幡祭り (第1日曜日)	三匹獅子舞【杉沢・初森】 (11月3日) 川向八幡神社の三匹獅子舞 (第3日曜日) 太々神楽【油井神社・鈴石】 (第3日曜日) 太々神楽【大平・白鳥・木幡津島】 (第2日曜日) 日山・旭神社三匹獅子舞 (第2土日) 塩松神社秋季例大祭【小浜の紋付祭り】(スポーツの日の前々日) 針道の山車もみ【あばれ山車】(スポーツの日の前日) 高村智恵子顕彰会レモン忌 (10月上旬) 二本松の提灯祭り (10月1日・日・月) 二本松の菊人形 (10月11月中旬)	曼珠沙華まつり (10月)	東和ふるさと祭り (第4日曜日) 原瀬の長獅子 (第4土日) 岳温泉観光仮装盆踊り (第4土日)	智恵子の里安達夏祭り (12日) いわしろ夏まつり (中旬) 岳温泉観光仮装盆踊り (第4土日)	二本松少年隊顕彰祭・墓前祭 (28日・29日) 木幡の三匹獅子舞 (第1日曜日) 智恵子の里安達夏祭り (12日) いわしろ夏まつり (中旬)	オリエンテリングあだたら高原大会 (最終日曜日) 羽山山開き (第3日曜日) 安達太良山山開き (第2日曜日) 口太山山開き (第2日曜日)	万人子守地蔵尊例大祭 (3日・4日) 成田水雲神社の太々神楽 (3日) 小浜長折三匹獅子舞 (隔年5月4日) 羽山の里クマガイソウまつり (中旬・下旬) 羽山山開き (第2日曜日) 口太山山開き (第2日曜日)	錦町の太々神楽 (第1日曜日) 若宮八幡神社祭／大杉まつり (第3日曜日) 平石高田の太々神楽 (4月29日) いわしろさくらウオーク (下旬)	長谷観音祭 (17日) 岳温泉あだたら万遊博 (中旬)	FCT杯スキー大会 (中下旬) 朝日杯スキー大会 (中旬)	石井の七福神と田植踊 (随時) 岳温泉神社元朝参り／羽山元朝登山 (1日) 太々神楽【三島神社・田沢熊野神社】 (3日) 広瀬熊野神社の御田植祭 (中旬)



交通情報

- ✈️ 新千歳空港 ~ 福島空港 約1時間20分
伊丹空港 ~ 福島空港 約1時間5分
- 🚗 浦和IC ▶ 二本松IC 約3時間
仙台南IC ▶ 二本松IC 約1時間
新潟中央IC ▶ 二本松IC 約2時間

- 🚄 (JR) 東京駅 ▶ 二本松駅 約1時間50分
仙台駅 ▶ 二本松駅 約50分
- 🚌 (高速バス) 仙台駅前 ~ 二本松BS 約1時間30分
新宿駅南口 ~ 二本松BS 約4時間40分
大阪あべの橋 ~ 二本松BS 約11時間50分
成田空港 ~ 二本松BS 約5時間

《バス・タクシー・レンタカー・各観光協会》

昭和タクシー	0243-22-1155	二本松市観光連盟	0243-55-5122
丸や観光タクシー	0243-22-2744	にほんまつ観光協会	0243-24-5085
二本松自動車販売(株)	0243-23-0466	(一社)岳温泉観光協会	0243-24-2310
二本松レンタカー	0243-22-0515	あだち観光協会	0243-23-9024
小浜レンタカー(バスのみ貸出)	0243-55-2674	岩代観光協会	0243-65-2803
福島交通(株)二本松営業所	0243-23-0123	東和観光協会	0243-66-2490
福島観光自動車二本松営業所	0243-22-2108	二本松観光案内所(一社)にほんまつDMO	0243-22-0785



二本松市観光連盟ホームページ

福島県こども救急電話相談

短縮ダイヤル #8000

・携帯電話・通話料がかかります。
・県境で掛けた場合、他県につながる場合があります。

夜間に突然、こどもさんの身体の具合が悪くなった場合、看護師や医師等が対処法についてアドバイスします。(毎日/午後7時~翌朝8時)